

第1回 明石市総合交通計画策定委員会 議事概要

日	時	平成24年6月18日(月) 9:00~11:00
場	所	明石市役所分庁舎5階教育委員会室
出席者氏名		別紙 出席者一覧
事務局名		明石市総合交通計画策定委員会作業部会事務局
配布資料		次第、出席者名簿、配席図
	資料1	明石市総合交通計画策定委員会設置要綱
	資料2	明石市総合交通計画策定委員会 構成員名簿
	資料3	検討目的とスケジュール(案)
	資料4	明石市の現状及び課題(案)とその詳細版
	資料5	総合交通計画の方向性と基本理念(案)

1. 開 会

2. 市長挨拶

本市の財政状況が厳しい中、より良い明石を作りたいと考えている。皆様のお知恵とお力をお借りし、総合的にしっかりと本市の先々の交通体系を作っていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

3. 委嘱状交付

交付後、市長及び土木交通部長退席し、土木交通部次長が土木交通部長の代理となる。

4. 事務局報告

資料確認・構成員紹介

事務局 設置要綱について(資料1)説明

5. 委員長挨拶

総合交通計画を策定した5年前は、たこバスは今のようには走っていませんでしたし、市バスはまだ走っているような状況でしたので、5年前と比べて、変わる場所は変わってきている。しかしながら、明石のまちが良いまちになっていくために、交通網をどうしていくのかを考えていくということの重要性は変わらないと思う。その議論をしていきたいと考えているのでよろしくお願いします。

6. 議 事

「第1号 検討目的とスケジュールについて」

事務局 資料2・3説明

【補足】

・本市においても少子高齢化が進んでおり、今後、更に高齢者が増えることや環境面か

らも公共交通の果たす役割は大きい。公共交通そのものが本市の財産であり、維持・確保していくことが必要である。

交通手段ごとの方策だけでなく、複数の交通手段の連携やマイカーや公共交通をかしく使い分けて移動するような方策も検討できればと考えている。

一方、本市の財政状況が非常に厳しいのも事実であり、それとの兼ね合いも含めて、今後の交通をどうすれば良いのか考えていければと思う。

【質疑】

- ・コミュニティバスは何路線あり、市の負担は何億かかっているのか。
⇒全 16 路線あり、運行経費は年間 2 億 5 千万円程度で、運賃収入が 7 千万円程度。赤字分の 1 億 8 千万円を市が負担している。

「第 2 号 明石市の現状及び課題について」

「第 3 号 総合交通計画の方向性と基本理念について」

事務局 資料 4・5 まとめて説明

【質疑】

- ・「現状と課題」と「5 つの基本戦略」の関係がもう少し見えた方がいいのではないか。例えば、課題の「都市経営コストの効率化」にある「財政状況の悪化や既存施設の老朽化」は、基本戦略での位置づけが分かりづらいので、もっと整理してはどうか。
⇒「都市経営コストの効率化」は、基本戦略を選ぶときの判断基準。予算が少ない中、優先順位を決めて、施策を実施しなければならない。
- ・新たな課題である「都市経営コストの効率化」を解決するための施策イメージはどういうものか。
⇒たこバスの収支改善や中心市街地の道路空間再配分等をイメージしている。
- ・基本理念に「恵まれた地域特性」とあるが、「恵まれた」というのは市民から見たものか、今まで計画を立てた中から見たものなのか。
⇒「恵まれた」というのは、以前から民間事業者の手で公共交通の水準が保たれており、これを活かして行こうということである。
⇒「恵まれた地域特性」というのは、単に交通サービスレベルの話だけではない。その地域特性を引き出すために交通には何が出来るかということを考えるべきである。
- ・「公共交通を「地域でまもる」意識の醸成」とあるが、具体的にどういう意味か。
⇒公共交通は利用者が少なくなると、維持できない。交通事業者も一定の利便性向上を図る努力をするので、利用者も車ばかり選ばずに公共交通も選択するという意識を持ってもらうことが必要という意味である。
- ・たこバスについて言えば、地域で守れば、路線によって安い値段で乗れるとか、サービスが良くなるような話か。
⇒路線バスは市が補助しなくても運行できているが、たこバスは市が 1 億 8 千万補助して運行している。収支の良いたこバス路線だけ料金を据え置くという考え方もあるし、バスサービスという観点からすべての路線で、等しく料金を上げるという考

え方もあるので、これからよく議論していく必要がある。

- ・「自動車移動の脱却、かしこい車の使い方」とあるが、自動車を一日使わないだけでCO2が削減できることを知っている人がかなり少ない。もう少し車を使う人に訴えるべきだ。PRの仕方、一人ひとりの意識を高めることが重要だと思う。

⇒市民一人ひとりへのPRは大切であると考えており、市としては、モビリティ・マネジメント（かしこい車の使い方）の取り組みを通勤車両の多い南二見や、学校教育としてかねてから実施しているが、今後はもっと認知されるように考えていきたい。

- ・大久保には大型スーパーや映画館、医療センターがあり、たこバスが良く利用されているようだが、西明石ではあまり利用することがない。市民病院や医療センターに行く回数を増やしたり、商工会議所と協力して目安になる店舗の近くにバス停を設置したりすれば、もっと利用するようになると思う。神姫バスについても市民病院に行くのに時間短縮するなど様々な工夫をすれば、もっと利用すると思う。

⇒情報提供の不足については、課題で「待合い環境の改善」に含めてしまっている。鉄道からの情報提供はあるが、公共交通全体の情報提供というのが重要で、それが出ていないということだと思う。バス路線の今後の考え方について、今のところは採算を考慮して本数を決めているが、路線を増やせば人が乗るから増やすとなった時に、収入が増えなかったらどうするのかというのはどんな路線でも同じ話である。

- ・明石市はPRが本当に下手で、もっとPRすればいいところがたくさんある。他所へ行った時に「明石もやっているのに」と思う。

⇒取り組みの中で、バス路線や鉄道駅、周辺施設も盛り込んだ「お出かけマップ」を作って利用促進を図っている。今後、情報提供の部分は、意見を聞きながら改善していきたい。

- ・基本理念については、現行どおりとして見直さないという説明であったが、基本理念は、市の交通体系のあり方や市として方向性という重要な意味を持つものなので、最後にまとめる時に表現を工夫したらいいのではないか。

⇒通常会社であれば、社長であっても、社長が替わっても会社の理念は変えられないくらい重い言葉だ。計画策定時は、それくらい重い理念をもってつくられたのだろうと思う。この一文だけではなく、この言葉になる以前の意味というのを書き足して行って表現した方が良い。

⇒この言葉に対して皆さんが抱くイメージには、かなり幅があると思う。副題を付けるなど、少し丁寧な書き方を考えていきたい。

- ・たこバスの市補助額は、1億8千万と非常に大きい。たこバスの収支改善は、どういう形で考えているのか。

⇒バスとして路線バスが200円、たこバスが100円。公共交通サービスとして捉えた場合、地元の方が利用目的、地域特性も含めてどのように判断されるかという観点

等から議論していきたい。

⇒収支改善の一つの方策として、これまで何度もルートは見直しており、この4月から新たに二見地域から魚住地域にかけて4ルート変更している。

- ・「多様な交通手段への転換」とはどのようなものをイメージしているのか。

⇒現行の計画では、公共交通への転換を図ってきたが、見直しでは、より適切な交通モードが選択できるような事が出来ないか分析していくを考えている。まだ具体的なイメージはない。

- ・明石市は、道路上の駐輪場整備を結構進めているが、明石駅前など、せっかくの広幅員歩道の幅員を狭めてしまっており、歩行者に対する問題が出てくるのではないか。

⇒多様な交通手段への転換という点で捉えると何を最も是とするかということになるが、対応が必要な地域では道路上の駐輪も必要になってくると考えている。

⇒明石駅前の南北道路と思われるが、一部歩道が交通量に見合わない幅員のところもある。今後は、行き違いが無いように計画していきたい。

- ・言い方が悪かったと思うが、安易に歩道に駐輪場を設置しようとするのは如何なものかということである。歩道に設置することが合理的なのであれば、それは関係機関と協議して決めていけばいい。

- ・課題のまとめにある「交通軸強化による集約型都市づくり」は、重い課題にも関わらず、基本戦略のところにあまり出てこない。「交通軸強化による」ということは、交通をメインに、集約型の都市づくりをしていこうということだと思う。

そもそも交通というのは派生需要として発生していることが多く、その目的となるようなオフィスや商業施設、病院等はどうするのかといった議論になっていくのではないか。土地利用についてまで、この計画の中で言えるのか。もう少し言うと、基本戦略の「利便性や安全性の高い交通環境づくり」のところに「交通結節点の機能強化」とあるが、都市計画マスタープランを見ると駅が地域核になっているが、機能強化は単に情報提供だけではなく、駅周辺に施設配置をマネジメントしながら、場合によっては社会実験的なこともしながらというイメージが膨らむが、そういうところまで読んで良いのか。

⇒短期的に取り組めるものと、ある程度長期的なものがある。都市計画マスタープランではコンパクトシティという方向性が謳われているが、土地利用により誘導されることもあるし、やはり交通ネットワークの部分も大きいと思うので、そこを目指しているということは書いておかないと各事業主体と連携するときの御旗にならないと思う。たこバスが一つの例で、大久保は中心に施設が集まっているおり、収支が良いが、二見は施設がバラバラにあるので収支が悪い。では施設を集められるのかといえ、それは難しい。交通ネットワークで一番何がベストなのか、どこに重きを置くのかという優先順位の根拠にはなると考えている。

- ・JR 魚住駅前の魚住モールに空き店舗があり、明石工専、清水高校、明石商業が中心

となってそこを利用するという事で、地域の高齢者の交流の場として、毎週火曜日にその2階を借りている。これは市の事業の一環としてやっている。それをもう少し発展させれば高齢者の方も来ることができるが、たこバスが1時間間隔だと待つのが大変なので、30分間隔にしてほしいという要望を出そうかと地域の方も言っている。

9月以降については、もう少し駅前が賑やかになるような方法を考えている。それに伴って、たこバスを上手く走らせてもらえればと計画している。5年、10年の計画なので具体的に動けば、また報告させてもらう。地域活性化も含めて路線を増すといったことを社会実験的にやってもらえたらと思う。

⇒具体のまちづくりの動きを交通面からサポートできることはサポートしたいし、誘導することを考えて行こうということなので、方向性の議論は相談事項になるかと思う。実際にはそのお金をどこからとってくるのかが問題になると思うので、やはり全部はやれないし優先順位を決めて行くことになっていく。本会議ではまずは全体のポリシーをどうするか議論をしていく必要があり、具体のケースについてはその後の議論になるのではないかと。

【委員長まとめ】

- ・現状及び課題のまとめ、基本理念や戦略について、さらに付け加えるようなご意見を頂いたが、この線では駄目だという意見は無かったと思う。

基本理念については、もう少し分かりやすく、この言葉だけでは分かりにくいのでもう少し見せ方を考えるべきだとのご意見を頂いた。

課題のまとめにある効率化、コストの話はプライオリティをつける時に考えて行こうということだが、そこは基本戦略の説明文章か何かに入れておくことになるかと思う。

都市づくり、まちづくり、土地利用的な計画等の将来性と交通との関係について、実際どこまでいくのか、どう変えていくのかという意見交換があった。

情報提供とひとづくりには、し難いと思うが、折角便利で良い所・良いサービスが沢山あるまちなのに、それを知っている人は知っているが、知らない人は知らないという状況を、課題では細かく書いてあるが具体には表に出ていないのが残念だというご意見があった。

これらの意見は、基本戦略や課題の書き方の時に整理する形で反映させてもらいたいと思う。このあたりも踏まえて、部会を進めていただければと思う。そのような方向で進めると言うことで、宜しいでしょうか。

⇒異議なく、議決。

7. 閉 会

以上

第1回 明石市総合交通計画策定委員会 出席者一覧

区分	所属	職名	氏名	役職	出欠	備考
学識経験者	神戸大学	教授	正司 健一	委員長	○	
	大阪大学	准教授	松村 暢彦	副委員長	○	
市民又は 利用者の 代表	明石市連合自治協議会	会長	武久 榮一	委員	○	
	明石市高年クラブ連合会	副会長	藤木 國子	委員	○	
	公募委員		増井 文江	委員	○	
	公募委員		山本 あゆ美	委員	○	
運行事業者	明石地区バス事業者協会	会長	本間 和典	委員	○	随行 副会長 長谷川真一 神姫バス 宮本篤志
国	国土交通省神戸運輸監理部 兵庫陸運部	首席運輸企画 専門官	新屋敷 昭一	委員	○	
県	兵庫県県土整備部 県土企画局	交通政策課長	濱 浩二	委員	代理	代理 副課長兼計画係長 登日 幸治
市	明石市	土木交通部長	福田 成男	委員	△	代理 土木交通部次長 長渕 恵臣
事務局	明石市土木交通部 交通政策室	交通政策担当 部長 兼 交通政策室長	笹岡 正幸	事務局長	○	
		交通政策課長	舟橋 秀和		○	
		交通政策調整 担当課長	田中 祥裕		○	
		交通政策課 係長	高岸 義久		○	
		交通政策課 係長	若間 康弘		○	
		技術職員	吉川 大智		○	
	建設技術研究所大阪本社 道路・交通部 計画室		高橋 富美		○	
			粟生 啓之		○	
			志茂 英知		○	

※明石市長は冒頭の挨拶と委嘱状交付のみ出席